茨城・染野屋がスペイン進出 豆腐など製造販売

#茨城 #静岡 #石川

2022/12/20 19:11 [有料会員限定]

スペイン・バルセロナにある日本人創業の店舗、製造設備を染野屋が引き継いだ

大豆を原材料とする食品製造販売の染野屋（茨城県取手市）は2023年1月からスペインのバルセロナで事業を開始する。今年9月に買収した現地事業者の製造設備や店舗を使って、豆腐や冷凍食品などの製造、販売を手掛ける。バルセロナ進出は同社の海外事業の第1弾。今後は欧州各国で1カ所ずつ、事業拠点を新設していく方針だ。

バルセロナの拠点は日本人が創業した法人の施設などを引き継ぐ。もともと豆腐や日本食弁当の製造販売、しょうゆ、即席のラーメン・味噌汁といった日本食関連の食材、調味料の仕入れ販売を手掛けていたという。後継者難で染野屋が運営企業の発行済み株式の3分の2を取得した。

現在は雇用を引き継いだ現地在住の日本人従業員2人で弁当の製販と食材、調味料の仕入れ販売を継続している。染野屋は日本から新たに社員を派遣して、23年1月から豆腐の製造・販売を再開し、染野屋として事業を本格的にスタートする。

買収したバルセロナの拠点は、豆腐製造は1日1000丁の能力を持っていたが、実際は10%ほどの稼働率だったという。他の事業分を合わせても、年間売上高は日本円にして3000万円ほどにとどまってきた。

染野屋は現地製造する豆腐の品目を増やしたり、日本国内で扱ってきた豆腐以外の自社製品、仕入れ販売商品も投入したりしていく。また、飲食店や小売店を出荷先とするスペイン現地での卸売事業の拡大なども進める。年間売上高は最終的に10億円ほどの水準まで引き上げることができるとみている。

今後はバルセロナから距離が近いフランス南部を対象に事業拠点の新設を検討する。拠点を確保するにあたっては自力での開設、既存企業・設備の買収など、様々な手法を視野に入れていく。

染野屋は江戸時代創業の老舗豆腐店で、現在の小野篤人氏が8代目当主として社長に就任した04年ころは年間売上高300万円ほどの事業規模だったが、22年3月期の売上高（単体）は17億5000万円（前年比7%増）に拡大している。

自社製品は国産大豆だけでつくる豆腐のほか、現在は大豆を原料とする植物性の代替肉を使った冷凍食品を開発。「ソミート」の名称でギョーザやミンチ、生姜焼き、カレーをシリーズ展開している。染野屋はこうした自社の、一連の事業について、サステナビリティー（持続可能性）を重視する欧州の消費市場と親和性が高いと見ている。

（岩崎樹生）

■国内は移動販売を主軸に展開

染野屋はこれまで国内では、小型トラックを改造した移動販売車を主力として商品販売を手掛けてきた。販売は社員のほか、社員が独立してのれん分けした個人事業者が担っていた。自社商品のほか、産地直送の野菜や菓子類も仕入れ販売する商品として取り扱っている。

移動販売車は現在、関東と静岡、石川の9都県に1カ所ずつ置いた営業所を拠点にして、合計110台ほどを運用している。日本国内の販路については「営業所を1年に1カ所ずつ、移動販売車を10～20台ずつ増やしている」（小野社長）。今後は山梨、福島県のほか、21年に買収した事業者が拠点とする石川県に近い富山、新潟県などを新規の進出先として検討しているという。

国内では移動販売を主力の販路にしている